


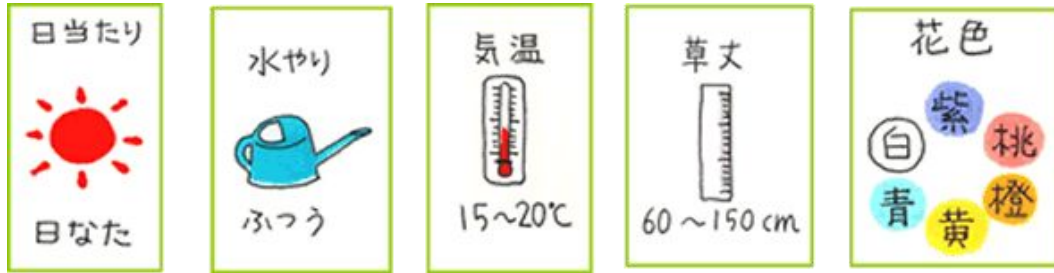
お花の栽培シリーズ「ルピナス」		
2006年6月	水無月(みなづき)・且月(しよげつ)・無水月(みなづき)・風待月(かぜまちづき)・鳴雷月(なるかみつき)	●梅雨で雨が多い時期
<p>●梅雨でジメジメとした日が続きます。 春の草花の切り戻しをして長く持たせたり、春花壇の片付けをして夏の準備を始めます。 ●雑草の多くなる時期ですので、こまめに除草をしましょう。</p>		
庭木の作業	・花の終わったアジサイやサツキの切り戻し。	
草花の作業	・春花壇を片付け、夏花壇へ模様替え ・チューリップやスイセンなど、春咲き球根を掘りあげて、保管する。	

今月の誕生花	カラー、クチナシ、バラ	
今月の花	<p>ハナショウブ 花言葉 / やさしい心、忍耐、あなたを信じます、優雅な心</p>	
	<p>江戸系、伊勢系、肥後系などにわかれ、江戸錦・麗月・高嶺の花・舞扇などの美しくあでやかな名前がつけられます。 野生種の「ノハナショウブ」から改良された園芸品種です。 江戸時代から栽培されている ロングランのお花です。 文字通り「美しい花を咲かせるショウブ」という意味ですが、端午の節句に飾るショウブは、サトイモ科で 花も淡黄色。まったく違う品種です。</p>	
	<p>原産地は日本。アヤメ科アヤメ属の多年草。草丈は40～120cm。開花時期は5～7月。最盛期は6月。葉の形状は、扁平の線状葉が2列に互生し直列、剣状で隆起した中脈。花色は、赤・ピンク・黄・オレンジ・青・紫・白・褐色・覆輪・底白。英名ジャパニーズ・アイリス (Japanese Iris)。</p> <p>英名の「アイリス」の語源は、ギリシャ神話の虹の女神イリスから きているといわれています。 イリスは、神々の使者で、天と地を往復するための大切な 架け橋でした。 ハナショウブの花の色が、虹のように鮮やかなことから連想で「アイリス」という名前がついたのかもしれませんが。</p>	

お花の栽培シリーズ

今月の花

ルピナス



ルピナスは、古代エジプトの時代から食用・薬草・石鹼などに利用されてきた、歴史の古い草花です。和名は、羽団扇豆(ハウチワマメ)で、葉が天狗が待つ羽でつくった団扇に似ていることからつけられました。

「ノボリフジ」の別名のとおり、1.5cm前後の小さな花が立ち上がるように咲く様子が みごとです。

一年草と 多年草があります。

寒さには強いのですが、夏の寒さには弱く 株が腐りやすいので、暖かい地方では 多年草も 一年草として育てます。

多年草の春まきは、その年には咲かず、翌年から 花を咲かせます。

一年草は、秋まきは4~5月に、春まきは5~6月に咲きます。

秋まきの 種まきは、9~10月に行います。

根がまっすぐに伸びる性質で 移植できないので、花壇などに直まきします。

酸性土壌を嫌うので、植えつけや 種まきの前に 石灰をまいて、中和させておきます。

病害虫の心配は ありません。

●種まきの やり方



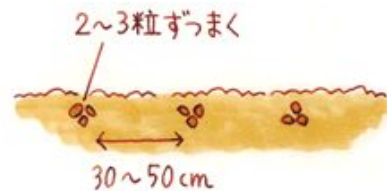
直まきする場所は、日当たりと 水はけのよい場所を選び、植えつけ2週間前に 石灰をまいて、土と よく混ぜて、中和させておきます。

肥料は 少なめにしましょう。



一晩水につける!

種は 皮がかたいので、一晩 水につけておくと発芽しやすくなります。



●鉢植えの楽しみ方



鉢植えで楽しむ場合は、矯性種のラッセルミナレットが適しています。

●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育状況			花期									
植え場所	屋外の日当たりのよい場所							屋外の日当たりのよい場所				
水やり	表土が乾いたら与える(5~10日に1回)		表土が乾いたら与える(1日に1回)			表土が乾いたら与える(1日に1回)			表土が乾いたら与える(5~10日に1回)			
肥料									 元肥 ※チッソ過多にならないように気をつける			
病気害虫												
作業	植えつけ		種まき			種まき			植えつけ			